

2023年5月8日

海外福岡県人会御中

東京福岡県人会
国際交流委員会

2023年5月度会報「東京と福岡」

日本は新緑が目には鮮やかな、清々しい季節となりました。

今日から日本ではコロナは感染症2類からインフルエンザ並みの5類相当に引き下げられました。町を出歩いてマスクを着用されていない人が増えてきました。

昨日までのゴールデンウィーク期間中もコロナ感染が落ち着いてきたことを反映し、行楽地はどこもインバウンド客を含め人の波で溢れていました。2020年から低迷してきた観光業もようやくこれで一息つけそうですが、一方で人手確保に苦勞しているホテル、飲食店などが散見されます。自宅付近の商店街にある牛丼の吉野家も人手不足で午後11時までの営業時間を大幅に短縮し、午後4時に終業し始めました。季節要因も多少はあると思いますが、労働者不足問題はこれから益々顕在化しそうです。

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は先月、2070年までの日本の将来推定人口を公表しました。それによると総人口は2020年の1億2615万人(外国人 275万人)から2053年には1億人割れとなり、2070年には約3割減少し、8700万人(内、外国人が939万人)になると予測しています。

就中、生産年齢人口の減少が深刻です。これからの日本は人口減少を前提として適応社会形成、生産性を高め経済発展に繋げる努力が益々必要となります。

国連の長期人口予測によると世界の人口はこの11年で70億人から80億人に着実に増加しています。今年半ばにはインドが中国を抜き、人口世界一になります。世界人口は2080年代末に100億人強とピークを迎え、それから減少すると予測されています。

現時点においても人口が減少している国は日本だけではなく、イタリア・韓国、そして昨年人口減少に転じた中国など10数か国に上っています。

人口が増加する国

	2020年	2050年	2100年
米国	3億3500万人	3億7500万人	3億9500万人
英国	6000万人	7100万人	7000万人
豪州	2500万人	3200万人	3800万人
インド	13億8900万人	16億6800万人	15億3300万人

人口が減少する国

中国	14億2300万人	13億1600万人	7億7100万人
韓国	5100万人	4500万人	2400万人
ドイツ	8300万人	7900万人	6800万人
日本	1億2600万人	1億400万人	6200万人

日本の人口は合計特殊出生率（現在 1.31）が人口維持に必要な人口置換水準（2.07）を過去数十年大幅に下回っていることから、予測通り着実に減少していくことは確実です。特に私などの第1次ベビーブーム世代が80歳代半ばになる約10年後には毎年大幅減少となるでしょう。

日本在の外国人の人口推移は1991年122万人→2001年178万人→2021年276万人と着実に増えていますが、今後も政府の予測通りに増えていくには日本経済が外国人にとり魅力的なものである必要があります。

日本在の外国人

	2001年	2021年
中国	38万人	77万人
ベトナム	2万人	43万人
韓国	63万人	44万人
ブラジル	27万人	21万人
比国	16万人	28万人
その他	32万人	63万人
総合計	178万人	276万人

現在の日本は、世界の未来を先取りした人口状況と言えます。人口減少は経済成長、安全保障、健康・介護などの福祉、インフラ維持など多方面にわたり厳しい問題を惹起されると思います。国としてステータスをどのようにして維持していくことが出来るか、日本人の叡智が求められています。

ただ経済面での日本のステータスは厳しいものがあります。

日本の GDP の世界での位置（単位 兆ドル）

	1990年	2000年	2010年	2022年
世界合計	22.6	34.1	66.5	100.3
米国	5.9	10.3	15.0	25.5
中国	0.4	1.2	6.0	18.1
日本	3.2	5.0	5.8	4.2

米ドル建ての GDP 推移ですので為替の変化にもよりますが、世界のドルベースの GDP は過去30年間で約5倍弱に増加していますが、同期間の日本の円ベースでの GDP はほとんど横ばい状態であったため、世界全体の GDP に占める日本のドルベースでの GDP は1990年の14.5%→2000年14.7%→2010年8.7%→2022年には4.2%と大きく下がっています。まだ辛うじて世界3位の位置にいますが、このポジションを何時まで維持できるか。

人口減少で内需も落ち込みます。生産年齢人口も減少するので、如何にして労働生産性を大きく向上させられるか新たな技術革新と新規産業創設が望まれます。

江本

